

# 市響

ハーモニカと  
オーケストラの出会い  
2020  
ファミリー交響楽コンサート

カーシュイン  
キューバ序曲



シェイクスピア  
ハーモニカと  
弦楽オーケストラのための  
五つの小品

クロマティックハーモニカの作曲家  
ジョー・パワーズ



メンデルソーン

チャルダッシュ

リベルタンゴ

モーツァルト

トヴォルザーク

交響曲第8番 ト長調 作品88

指揮：清水望之  
管弦楽：市川交響楽団



平成 23年 12月 4日 (日)  
午後2時開演 (1時30分開場)  
市川市文化会館大ホール  
入場無料

市川市文化会館大ホール 入場無料

## ////////////////////<プログラムノート>////////////////////////////////////

菅原 ひとし (ファゴット)

### ★G.ガーシュイン／キューバ序曲

ジョージ・ガーシュインが音楽への興味を持ったきっかけの曲はドヴォルザークの『ユモレスク』だそうです。この20世紀前半に活躍したニューヨーク生まれの人気ソングライターは、ジャズとクラシックを融合させたオーケストラ曲の作曲を志し、独学に満足せず、当時の有名作曲家たちに教を請いました。しかしストラヴィンスキーからは、「どうすればあなたのように高い収入を得られるのか、逆にこちらが教を請いたい」、ラヴェルからは「あなたは既に一流のガーシュウインです。なぜ二流のラヴェルになる必要があるのですか」と言われるほど、すでにジャンルを超えた高い評価を得た存在だったのです。この『キューバ序曲』は、ガーシュインが34歳の時にキューバへ行った際、現地の音楽に影響され書いた曲です。キューバはご存知の通り中南米はカリブ海に浮かぶ最も大きな島国、「刑事コロンボ」などでもおなじみの最高級葉巻の名産地ですので、ガーシュインもきっと堪能したことでしょう。

国民は大半がスペイン系とアフリカ系のミックスであるため、ラテン音楽の中核的な存在といわれ、結婚式やパーティーで踊られるルンバのリズムはその代表的なものです。

この曲はラテン打楽器(表紙の写真参照)の活躍で血沸き肉踊るルンバの部分と、それに挟まれたエキゾチズムあふれる旋律が印象的な中間部を持つ3部構成でできています。

なお、題名にある「序曲」とは演奏会用序曲のことで、特定のオペラなどに付属するものではありません。演奏会用序曲は、オペラ序曲などと同様の3部形式を持った独立した管弦楽曲で、オペラ序曲がその存在を保ちつつ、後にハイドンの手により交響曲へと進化したように、演奏会序曲も同様にリストやサン＝サーンスにより交響詩へと進化していきました。

♪～ハーモニカソロの、次の3曲は、ジョー氏からコメントをいただいております。～♪

★V.モンティ/チャルダッシュ

とてもダイナミックな曲です。すごく情熱的で揺れるテンポのオープニング、突然始まる猛烈に速くて技巧的な主題。聴く人をエキサイトさせる華々しい曲です。

★ピアソラ/リベルタンゴ

ピアソラの最も有名な曲で、私のお気に入りの1つです。誰の耳にもすぐ入る繰り返されるメロディックなフレーズと3 + 3 + 2のリズムの「タ4 トトタ4 トトタ4 ト」で、私は立ち上がって踊りたくなってしまいます。

★G.ジェイコブ/ハーモニカと弦楽オーケストラのための「五つの小品」

クロマチックハーモニカのニュアンスを十分に引き出す五つの小品による音楽旅行は、にぎやかな「カプリース」で始まり、内面をなだめるような「子守歌」、ノリのよい「カントリー・ダンス」、瞑想的な「挽歌」、そして華やかな「ロシアン・ダンス」でフィナーレを向かえます。この曲は超絶技巧性と印象的旋律性の二面を持つ、ハーモニカとオーケストラのための数少ない作品だと私は思います。

★A.ドヴォルザーク/交響曲第8番 ト長調 作品88

【1】ドヴォルザークは鉄道マニア

ドヴォルザークは毎日プラハ駅で機関車を眺め、時刻表を暗記し、機関手と話してのを楽しみにしていた大の鉄道好きで私の想像ですがこの曲でも機関車の描写とも思える部分が多々あります。

1楽章のDやMからの細かい3連符は「ガタッ・ゴトーン」

3楽章のコーダのオーボエとファゴットは「シュシュポポ」

4楽章のCなどではホルンで汽笛が激しく「ポーッ」

ちなみに私は「猫」という拓郎のバックバンドが歌った『地下鉄にのって』を聴いて以来の丸の内線のファンで考え事をするとき夜、1人で地下鉄博物館の窓から300形を眺めることもあります。

【2】ドヴォルザークの金銭へのこだわり

ベルリンのジムロック社はドヴォルザークの専属出版社でしたがジムロックはドヴォルザークの小品の出版には積極的でしたが交響曲のような大曲は期待していませんでした。その結果この曲の出版は報酬問題で決裂しイギリスのノヴェロ社にゆだねられました。

「イギリス交響曲」とよばれていたのはこのことが理由です。皆さんが使っているパート譜はこのノヴェロ社の版下を使っています。また新世界交響曲の初演演奏会も報酬の交渉で折りが合わずなかなか実現なかったそうです。このように、ドヴォルザークは数多くの金銭へのこだわりを見せていますが、ある書籍によると、祖国に残した家族への仕送りがその理由だそうです。

【3】ドヴォルザークはなぜたった3小節のためにコール・アングレを使ったのか コール・アングレは訳すとイギリス風ホルンですね。ドヴォルザークはコール・アングレをはじめ聴いたときから心の内面に響くサウンドを気に入りこの楽器を交響曲に使うアイデアを持ちました。そして、この第8番で試しに1フレーズを使ってみたところ(1楽章Lのあとの *meno mosso*)すごく評判がよくかったそうです。この成功に背中を押されドヴォルザークはこの楽器の個性を充分生かしたメロディーを書きました。「新世界交響曲」2楽章の有名なソロの誕生です。チラシのドヴォルザークの名前の近くにコール・アングレの写真を入れたのはこれが理由です。



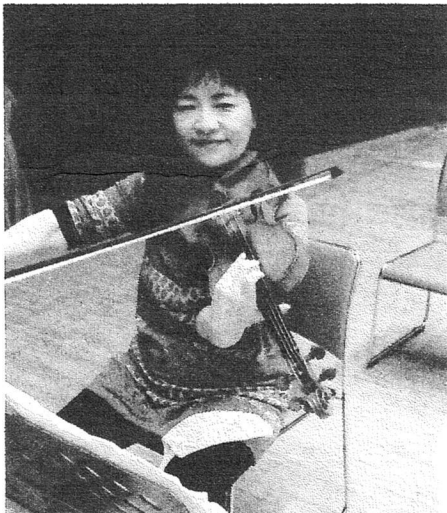
顔  
と

ハーモニカの  
魅力を伝えたい

ハーモニカ奏者  
ジョー・パワーズさん (33歳)

★くいちかわ新聞 11月25日発行のトップ記事の写真＞

～♪ハーモニカの魅力を伝えたい。♪～  
ハーモニカ奏者 ジョー・パワーズさんが、  
「ハーモニカはベストフレンド」  
「市川は第二のふるさと」と熱く語った記事が掲載  
されました。一歳半のときにもらったクリスマス  
プレゼントがハーモニカとの出会いでした。



★市響のコンサートミストレス、立田祥子さん

ドヴォルザークの交響曲8番の第二楽章では突然  
美しい ソロヴァイオリンの音色が聞こえてきます。  
ついうっとりと聞きほれてしまうほどです。写真は、  
昨日12月3日、市川市文化会館で、ゲネプロ練習  
の合間にソロの部分をおさらいしている立田さんです。  
一楽章が激しくフォルテッシモで終わるので、  
指揮者の清水先生は、ソロのためにも一楽章終了時  
に調弦しましょう、ということになりました。



★指揮者の清水宏之先生と、

ジョー・パワーズさん

とが流暢な英語で「弦楽オー  
ケストラのための5つの小品」  
を練習打合せ・調整時の様子です。  
清水先生の英語は全く見事で、  
団員一同羨望の眼差しでした。